

今号の目次

1. 役員交代 1
2. 2016年度行事のお知らせ 3
3. 「国際公共経済研究」第27号論文募集 4
4. 研究大会、学会賞報告 5
5. 事務局より 5

1. 役員交代

第30回研究大会で、理事改選が行われ、会長などが交代いたしました。新・旧会長からご挨拶をいただきました。

会長あいさつ



国際公共経済学会は欧州に本部を置く CIRIEC（公共・協同経済研究情報国際センター）の日本支部として、1985年に設立されました。最初の研究大会は1986年12月に東洋大学で開かれ、2015年12月の名古屋学院大学での大会で、30周年を迎えることができました。このような節目となる時期に、前会長の仲上健一先生の後を引き継ぎ、第6代の会長に就任することになり、身の引き締まる思いです。長年、事務局長を務めていただきました松原聡先生をはじめ、いつも学会運営にご尽力いただいております先生方や研究大会の開催にご協力いただきました関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

研究大会は毎年、冬季に開催してきました。現実における経済動向や社会問題の重要な論点からテーマを選び、専門家を招いたシンポジウムにより議論を深めています。これまでに民営化やグローバル化、環境、震災復興、地域再生などのトピックスに関する具体的な課題を掘り下げ、将来の政策形成につながるような研究活動を続けてきました。近年は春季大会も開かれるようになり、研究成果の報告と会員間の意見交換が一層、活発に行われています。更に、次世代研究部会を設けて若手研究者を中心とする合宿を行うなど、公共政策や市場システムについての研究の継続性を意識した活動も展開しています。

国内の大会に加えて、隔年で開催される国際大会に参加できるのも本学会の魅力です。東洋大学の今村肇先生が国際本部の副会長を務めておられますので、日本からも参画する機会が増えていま

す。特に、公企業部門と社会経済部門について、それぞれ国際比較の研究に取り組み、ワークショップなどを通して各国の研究者や実務家との交流を深めてきました。わが国では人口減少に伴い公共サービスの維持が大きな政策課題となっていますが、欧州における官民連携の経験から学ぶべき点も多いため、国際レベルでの交流はますます重要になってくると思います。今後とも、皆様のご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

野村 宗訓（関西学院大学）

前会長あいさつ



2015年12月5日・6日、名古屋学院大学で開催されました、第30回研究大会・理事会・総会において、第6代会長として、野村宗訓先生(関西学院大学)が選任されました。これは、松原聡事務局長を中心に準備されました、国際公共経済学会役員選挙規定による初めての理事選出による理事全員による総意によるものです。学会の若返りとともに、体制の強化ということで関係各位に厚くお礼申し上げます。

思い起こせば、2009年12月6日、東洋大学で開催されました、第24回研究大会・総会で第5代会長に就任した時の挨拶で、「国際公共経済学会での研究報告内容は、今日の市場経済社会のなかにあつて、公共と民間との関わり、社会経済システムに関わるあらゆる分野に及んでいます。学会をより一層、存在感のあるものにするためには、研究成果の場での充実が欠かせません。」と述べました。今日の学会活動においては、国際大会/社会的経済コンファレンス、研究大会、春季大会、次世代研究部会と多彩な研究活動が充実してまいりました。これも偏に、理事・会員の皆様のご協力によるものと感謝申し上げます。また、松原事務局長のもとに事務局を支えていただいた竹村真紀子様、山田はるみ様に厚くお礼申し上げます。とくに、第30回研究大会(伊藤昭浩(名古屋学院大学)実行委員長)は、大会テーマ「地方自治の未来図」のパネルディスカッションとして、5つのパネルが連続的に行われるという、国際公共経済学会ならではの充実した内容であり、「国際公共経済学会での研究報告内容は、今日の市場経済社会のなかにあつて、公共と民間との関わり、社会経済システムに関わるあらゆる分野」に及んでいることを実証されたものとなりました。また、第5代会長記念講演セッション『水資源環境問題の超克とサステナビリティ評価 - エンジニア・エコノミストの挑戦 - 』では、公共経済学の系譜に触れつつ、エンジニア・エコノミストとして国際公共経済学会に関わってきたことの喜びを改めて認識しました。

ここで、少し学会活動を振り返ってみたいと思います。2010年12月4日、5日立命館大学で開催された、第25回大会では、CIRIEC 事務局長講演ならびに、パネルディスカッションとして「Public and Social Economy, 25 Years of CIRIEC and Japan.Future Prospect?: Introduction of CIRIEC International」が今村肇コーディネーター(国際公共経済学会副会長・CIRIEC 副会長)のもとで国際的な雰囲気のもと大いに議論が展開されました。

2011年3月11日には、東日本大震災が発生し、国際公共経済学会も組織的・財政的にも多大な影響を受けました。しかしながら、公共経済という立場で、深い反省にたちながらも、国際公共経済学会から日本の政策系の主要な学会に呼びかけ「学会連携・災害対応プロジェクト」を呼びかけ、50近い学会からの賛同を得ました。第26回大会(2011年 中央大学 「震災復興と日本再生のための

政策対応・制度改革」)、第27回大会(2012年 京都大学「環境・エネルギー・震災復興とガバナンス」と他学会のご協力のもと震災復興のあり方を真剣に議論しました。ここに国際公共経済学会の社会的責任の一端を果たせたと思います。

最後に、野村新会長・伊藤新事務局長のリーダーシップのもとで学会員が結集し、学会活動が一層、活発化することを願ってやみません。今後とも、国際公共経済学会へのご協力を、よろしくお願い申し上げます。

仲上 健一 (立命館大学特任教授)

2. 2016年度行事のお知らせ

1. 春季大会

(1) 春季大会について

- ・日時：2016年3月5日(土)
- ・会場：大東文化大学(東京・板橋キャンパス)
- ・内容：次世代研究部会(パネルディスカッション)、修士論文賞審査・発表、理事会、若手・一般報告

(2) 修士論文賞の募集

春季大会で本学会の「修士論文賞」の審査、表彰を行います。この賞は、2015年度に提出された修士論文の優秀論文を顕彰するものです。まず、論文審査で4点以内の論文を優秀論文として選出します。また、その優秀論文執筆者は、春季大会にて報告して、その報告内容を含めて、最優秀論文1点を選出します。以下の応募要領に即して、奮ってご応募ください。

① 応募資格：2015年度修士論文提出者

(応募者が学会員である必要はありませんが、学会員である指導教員の推薦が必要となります。推薦書は、HPからダウンロードしてください)

② 提出論文：下記の様式及び本会執筆要領による、修士論文をまとめた、12,000字の論文3部 および審査参考資料として修士論文原本のコピー1部

- ・目次：縮約版目次を作成し、修士論文原本の目次(原本コピー可)も添えて表紙の次に入れる。
- ・本文：修士論文の独創性、分析・検証手法を中心にまとめた12,000字のフルペーパーとする。
本文分量は、図表を含めてA4(1頁・35字×40行)9頁以内とする。
- ・アブストラクト(英文)およびキーワードの記載は不要とする。
- ・注ならびに参考文献リスト：全文末にまとめて記載する。これらは字数に含まない。

③ 締切：2016年2月8日(月)消印有効

(提出論文3部+修士論文のコピーの郵送、メールでは受け付けません)

④ 郵送先：〒456-8612 愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番25号

名古屋学院大学 商学部 伊藤昭浩研究室 国際公共経済学会事務局

⑤ 優秀論文審査発表：2016年2月23日(火)にHP上に掲載し、本人と指導教員に通知します。

⑥ 優秀論文報告および最優秀論文審査、発表：2016年3月5日(土)の春季大会(大東文化大学：東京・板橋キャンパス)にて

(3) 春季大会若手報告募集

春季大会の若手報告を募ります。以下の応募要領に即して、奮ってご応募ください。

① 応募資格：本会会員の大学院生（修士・博士課程）

② 発表を希望する方は、(1)所属、(2)氏名、(3)テーマ、(4)日本語のキーワード（5語程度）、(5)日本語要旨（5行程度）を、2016年2月5日（金）までに事務局にメールでお送りください。発表の可否について、事務局で簡単な事前審査を行い、1週間以内にご連絡します。

③ 宛先：japan@ciriec.com

※ フルペーパーの事前送付は必要ありません。ただし、学会誌への論文投稿を希望する大学院生は、ここで発表すれば、学会誌への投稿が認められます。ただし、発表から投稿締切まで僅かな期間しかありません。発表時まで論文をご用意することをお勧めします。詳細は事務局にお問い合わせください。

(4) 一般報告募集

春季大会の一般報告（自由論題）を募ります。

希望される方は「第4回春季大会報告希望」と明記し、(1)報告テーマ、(2)報告要旨（1,000字程度）、(3)氏名・所属・連絡先（住所、電話、メールアドレス）を 2016年2月5日（金）までに事務局にメールでお送りください（書式自由）。

宛先：japan@ciriec.com

2. 第31回 CIRIEC 国際大会

タイトル：31st International CIRIEC Congress

日時：21-23 September 2016

場所：Reims (France)

テーマ：《Public policies and social and democratic issues of globalisation》

※詳細については、ホームページでお知らせいたします。各自、ホームページより、個別にお申し込みください。

3. 第31回研究大会

- ・日程：2016年12月3日（土）・4日（日）
- ・テーマ：検討中
- ・会場：大阪市立大学
- ・実行委員長：有賀敏之（大阪市立大学）

3. 「国際公共経済研究」第27号論文募集

学会誌『国際公共経済研究』第27号（2016年9月発行予定）の投稿を募集します。査読論文、研究ノート、図書紹介、随筆等、広く募集しますので、奮ってご応募ください。

1. 査読付き論文 当学会では、学会の水準向上のために、査読制度（レフェリー制度）を設けています。査読を通った論文が学会誌に掲載されます。

- ① 提出論文：本会執筆要領による、12,000 字の論文、3 部
 ② 締切：2016年3月31日(木)消印有効(メールでは受け付けません)
 ③ 郵送先：〒456-8612 愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番25号
 名古屋学院大学 商学部 伊藤昭浩研究室 国際公共経済学会事務局
 ※大学院生が投稿するには、12月の研究大会か3月の春季大会での報告が義務となっています。

2. 研究ノート、図書紹介、随筆等

事前登録の必要は、ありません。

- ① 字数：研究ノート 12,000 字程度、図書紹介 1,500 字程度(最大 3,300 字以内) 随筆等適宜
 ② 締切：2016年4月17日(日)消印有効(メールでは受け付けません)
 ③ 郵送先：〒456-8612 愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番25号
 名古屋学院大学 商学部 伊藤昭浩研究室 国際公共経済学会事務局
 ※掲載にあたりましては、編集委員会が審査します。

4. 研究大会、学会賞報告

1. 第30回研究大会報告

2015年12月5日(土)、6日(日)に名古屋学院大学にて、第30回研究大会が開催されました。

2. 学会4賞の決定

〈学会賞〉 柏木 恵 (キヤノングローバル戦略研究所主任研究員)

「英国の国営医療改革 プレア＝ブラウン政権の福祉国家再編政策」

2014年12月、日本評論社刊

〈尾上賞〉 応募者なし

〈奨励賞〉 青木 勝一 (兵庫県立大学大学院経済学研究科博士後期課程)

「産業クラスターの進化メカニズム：ソーシャル・キャピタルとの共進化」

〈修士論文賞〉 該当者なし

5. 事務局より

1. 入退会員の紹介

①入会(14名)(敬称略)

津田 直則	(桃山学院大学)	林 承煥	(芝浦工業大学)
長瀬 康博	(大阪市立大学)	安本 宗春	(東北福祉大学)
海老名 一郎	(拓殖大学)	東 義孝	(防衛省)
山中 美子	(大阪大学大学院)	中野 雄太	(千葉商科大学大学院)
姫野 海里	(大阪経済法科大学)	久末 弥生	(大阪市立大学)
藤田 峻	(神戸大学大学院)	川脇 康生	(公益財団法人国際エムックスセンター)
小澤 卓	(中央大学大学院)	青木 秀和	(名古屋市立大学)

②退会（7名）（敬称略）

朱 然、岩崎 晃、庵原 さおり、程 天敏、吉岡 泰亮、緒方 俊雄、益田 安良

2. 新役員（2016年度・2017年度）

本会の役員が改選されました。

会長

野村 宗訓（関西学院大学）

副会長

CIRIEC 担当 今村 肇（東洋大学）

公共経済部会担当 植野 一芳（大東文化大学）

社会経済部会担当 牧野 松代（関西外国語大学）

顧問・名誉会長

植草 益（電力系統利用協議会理事長） 仲上 健一（立命館大学）

顧問

柴田 弘文（大阪大学名誉教授） 三浦 宏一（世界貿易センター）

事務局長

伊藤 昭浩（名古屋学院大学）

常任理事

穴山 悌三（東京電力） 齊藤 由里恵（椙山女学園大学）

理事

穴山 悌三（東京電力）	有賀 敏之（大阪市立大学）
市川 颯（関西学院大学）	伊藤 昭浩（名古屋学院大学）
今村 肇（東洋大学）	植野 一芳（大東文化大学）
上村 敏之（関西学院大学）	小熊 仁（金沢大学）
小澤 太郎（慶應義塾大学）	金子 勝規（大阪市立大学）
菊池 尚人（慶應義塾大学）	岸 真清（中央大学）
北島 健一（立教大学）	衣笠 達夫（追手門学院大学）
草薙 真一（兵庫県立大学）	楠田 昭二（早稲田大学）
齊藤 由里恵（椙山女学園大学）	西藤 真一（島根県立大学）
桜井 徹（日本大学）	白石 真澄（関西大学）
田端 和彦（兵庫大学）	田平 正典（南山大学）
内藤 二郎（大東文化大学）	仲上 健一（立命館大学）
中村 伊知哉（慶應義塾大学）	西田 亮介（東京工業大学）
西村 陽（関西電力株式会社）	野村 宗訓（関西学院大学）
藤井 大輔（東京交通短期大学）	堀 雅通（東洋大学）
牧野 松代（関西外国語大学）	諸富 徹（京都大学）
矢島 正之（電力中央研究所）	山田 航（兵庫県立大学）
和田 尚久（東洋大学）	

監事

石綿 晃（目黒区国際交流協会）

水田 健一（名古屋学院大学）

事務局次長

市川 颯（関西学院大学）

西田 亮介（東京工業大学）

幹事

柏木 恵（キヤノングローバル戦略研究所）

花田 真一（金沢星稜大学）

山口 翔（名古屋学院大学）

・各種委員会

次世代研究部会企画委員会（2016年度・2017年度）

（委員長）西田 亮介（東京工業大学）

第31回研究大会実行委員会（2016年度）

（委員長）有賀 敏之（大阪市立大学）

国際公共経済研究第27号編集委員会(2016年度)

（委員長）伊藤 昭浩（名古屋学院大学）

学会4賞選考委員会（2016年度・2017年度）

（委員長）楠田 昭二（早稲田大学）

3. 年会費納入について

当学会は、2015年12月1日より新年度に入りました。つきましては、2016年度（2015年12月1日～2016年11月30日）の個人会費8,000円（大学院生は会費4,000円）を、同封しました振込用紙で納入をお願いいたします。

会費未納の会員は、学会誌受領、大会参加、連携団体の会合出席等の会員サービスを受けられないことがありますので、ご注意ください。

☆学会情報は、最新のものをホームページ <http://ciriec.com/> に掲載してありますので、ご参照ください。

☆学会への連絡は、メール（japan@ciriec.com）か郵便にてお願いいたします。

学会賞規定、および執筆要領

修士論文賞規定

- 1(目的)国際公共経済に関する大学院修士課程修士論文等を顕彰し、修士課程在籍者およびそれに準ずる者の学術的研究の奨励に資するため、国際公共経済学会修士論文賞を設け、優秀なる修士論文等を審査選定してこれに賞を授与し、その業績を顕彰する。なお、「修士論文等」および「修士課程在籍者に準ずる者」の詳細については、理事会で決定する。
- 2(表彰)受賞は毎年4点以内とする。受賞者には、毎年3月に開催される「春季大会」での報告と、論文の学会誌掲載が認められ、優秀賞の賞状を授与する。さらにそのうち1点を、最優秀賞とし、賞状と記念品を授与する。
- 3(論文の応募資格)当該年度修士論文等の提出予定者
なお、修士論文賞応募者については、学会員であることは不要とするが、「学会員である指導教官の推薦書」を必要とする。
- 4(応募論文)応募論文は、修士論文を12,000字以内にまとめたフルペーパーとする。
- 5(公募)本賞は、毎年1月に公募を開始し、2月10日に締め切る。公募の詳細については、審査委員会において決定する。
- 6(審査)審査委員会は、応募論文を審査し、3月1日までに4点以内の受賞作を決定し、発表する。また、この受賞作の春季大会での報告のプレゼンテーションを審査し、論文審査と総合して最優秀賞を決定する。
- 7(報告)研究会において審査委員長は、審査の経過を報告して、会長は対象作に賞を授与する。また、学会機関誌等でこれを公表する。

国際公共経済学会論文執筆要領

- (1)論文は、日本語または英文で書かれたものとして、図表を含め、12,000字以内とする。英語の場合は、日本語の枚数に換算する。表題・執筆者名・所属機関名・キーワード(5語程度)を日・英文で明記する。また、英文要旨(5行程度)を必ずつける。
- (2)論文は、原則として横書きとし、ワープロ原稿とする。
- (3)表記は、現代仮名遣い、常用漢字とする。
- (4)本文に挿入する表・グラフ・地図等、文字以外の資料については、必ずそのまま原紙として使用できる状態で送付すること。挿入箇所を本文中に明示する。
- (5)注は文中の肩に(注1)のように記し、論文末尾にまとめる。
- (6)章・節は、1、2、1)、2)、(1)、(2)の記号による。
- (7)引用文献は注記する。記載は以下の方法による。
著書(単独)の場合執筆者名、[出版年月]、『書名』、出版社、引用ページ
著書(複数)の場合執筆者名、[出版年月]、『論文名』、編集者名、『書名』、出版社、引用ページ
論文の場合執筆者名、[出版年月]、『論文名』、『雑誌名』、巻号、引用ページ
- (8)提出:事務局に郵送にて3部提出。
学会事務局から、概ね1週間以内に受領メールを出します。
返信のない方は、事務局までお問い合わせください。